

優しく強い子に！



http://www.minamih.net/  
19・8・13(火)  
南NEWS no 52

## 福島訪問2日目の報告です

この日は浪江町の希望の牧場に行き、次に南相馬市小高の柳美里さんのブックカフェ・フルハウスに寄ってから帰途につくスケジュールでした。浪江町のエリアに入ると右のような看板や立ち入り禁止の看板がいたるところにありました。ボランティアの協力を得ながら奥さんと2人で希望の牧場を運営している吉澤さんの熱い想いを伺うことができました。迫力に圧倒される1時間でした。滴り落ちる汗をぬぐいながら、一生懸命MEMOをとりました。



第一原発は原発事故の墓場として残る。東京と首都圏の4千万人は、福島の犠牲の上に放射能を生み出す電気を使っていた。

除染は部分でしかない。汚染された牧草を食べた牛のメラニン色素が破壊され、突然変異で黒毛が白く変色している。



考える国民を育てるしかない！！  
戦争の時代と原発を子ども達に気持ちを込めて伝え続けなければならない。  
その呼びかけの先頭に立つのが希望の牧場。これを人生のテーマとしている。



吉澤さんは全国の小学生から大学生まで相手に講演をしているそうです。町田市的小山田南小でも6年生に話をしているそうです。

### 吉澤さんのお話

浪江町の学校は全て廃校になってしまった。行政は休校と言っているけど。新しい創成浪江小中学校には小学生が13人、中学生が1人通っている。町を残すことが浪江町行政の方針。しかし、住民は他地区で根付いている。

原発の汚染水が溜まっている。輪後に海に流すという話もあるが、浪江町請戸漁港の人達は心配している。

行政の役人は町に住んでいない。地震・津波・原発事故で、家畜・犬・猫はみんな見殺し。その後生き残った家畜の殺処分か餓死。



吉澤牧場では当時300頭の牛がいたが今は被爆した牛が270頭生きている。牛飼いとて命を助けた。



国にとって汚染された牛は消してほしい存在。“この牛を見て！原発を許すな！”と行動している。それを理解してほしい。

吉澤さんお手製の“カウゴジラ”。赤い電飾をつけてこの車を走らせ、都心をデモったこともあるそうです。→

吉澤さんの宣伝カー・カウゴジラは地震・津波・原発事故を新ゴジラとして表現しているそうです。

絶望状況にある被災者に“復興五輪を福島から応援しよう”のキャンペーン。反対は言えない。



吉澤さんの活動を取り上げた新聞

被爆牛が生きている限りこの活動は続く。  
希望は被災者にとって、自らが見つけ出し、考えながら、自らが創り出すもの。その行動が大切！  
幸せは自分で創る。  
希望は自分で創る。

吉澤さんの希望の牧場が絵本になっています。以前にも1冊買っていたのですが。今回のメンバー4人が1冊づつ買い求めて吉澤さんにサインしてもらいました。

決死救命 団結！  
そして希望へ  
2019・8・6  
吉澤 正己  
希望される方に絵本をお貸しいたします。



柳美里さんのフルハウスでは写真手前の2冊の本を買ってきました。右上の写真は、帰途につき、6号線から見えた南相馬市のフレコンバックの山です。

下の写真は6号線大熊町から見える第一原発です。森で建物は見えませんが、林立するクレーンが見えます。いつまで、どのくらいの費用がかかるのでしょうか。



